

2016年度 後期	リフレクションペーパー
-----------	-------------

学科名	生物環境化学科						
科目名	理科教育法Ⅱ（教）						
科目区分	教職科目	単位数	2	開講時期	後期		
必修・選択の別	教職(理科)必修						
担当者	西田 哲明						
授業の到達目標 (シラバスから)	<ol style="list-style-type: none"> 1. プロの教師として楽しい理科の授業を進めることができる。 2. 理科教育のカリキュラムづくりや適切な教材を選ぶことができる。 3. 環境問題やものづくり、ITなどについて指導することができる。 4. 模擬授業を通して教えることの楽しさと難しさを知ることができる。 						
日程と内容	<p>9/14：導入、授業形態、成績評価など 9/28：理科カリキュラムの歴史。カリキュラムとは 10/05：公休 10/12：国定教科書 10/19：系統的理科教育。「いかに教えるか」から「何をどのように教えるか」へ 10/26：模擬授業 10/28：学校教育改革と教育課程の再編。ゆとり教育と理科離れ 11/02：理科のカリキュラムづくり。現状と問題点 11/09：教材と教育内容 11/16：授業計画。実験・観察の位置づけ 11/30：模擬授業 12/07：理科の実験指導 12/14：ものづくり 12/21：環境教育・情報教育 1/11：理科授業における安全管理と危険防止 1/18：期末試験</p>						
成績評価基準	定期試験	80%	実技	0%			
	臨時試験	0%	部外評価	0%			
	報告書・レポート	0%	プレゼンテーション	20%			
	課題	0%					
	演習	0%	計	100%			
授業到達目標の達成度	<ol style="list-style-type: none"> 1. プロの教師として楽しい理科の授業を進めることが出来るよう、進歩の跡が見られた。 2. 理科教育のカリキュラムづくりや適切な教材を選ぶことが出来るようになった。 3. 環境問題やものづくり、ITなどについて指導することが出来るようになった。 4. 模擬授業を通して教えることの楽しさと難しさを知ることが出来るようになった。 						
反省点	<p>時折、数名の欠席者があった。これは、学科の専門科目(学生実験)が終了してから時間が余りすぎる事、実験のない日(レポート日、予備日)は、5限目の教職科目のみの授業となるなど、時間割上の問題があったことが一因と考えられる。 学期の途中で教職科目を放棄した学生が2名いたことは残念であった。</p>						
来年度の計画	<p>生物環境化学科で、過去10数年にわたり理科教育法Ⅰと同Ⅱを担当し、毎年複数の卒業生が公立高校、私立高校の教員に採用されている。多くの卒業生が教育の最前線で活躍していることを嬉しく、誇りに思う。</p>						
授業評価アンケートに対するコメント	<p>総合評価は9.8(10点満点)で、学部平均8.2を大きく上回った。評価の内訳は、11名中9名(82%)が満点、2名(18%)が9点であった。個々の項目についても5点満点で4.8~5.0であった。なお、アンケート実施日には2名の欠席があった。 理科教育法を含むすべての専門科目と教職科目の授業担当が定年のため、2017年3月末で終了することとなった。卒業生と在学生の今後の活躍と学科の発展を願っている。</p>						
履修登録者数	15名	定期試験 受験者数	13名	合格者数	13名	合格率	100%